

寒さの厳しい季節が過ぎ去り、春の温かい日差しが気持ちの良い季節となりました。

本日は、新型コロナウイルス感染症による非常事態の中、様々なご配慮を賜り、私達のために式典を挙式して頂きましたことを、卒業生一同より感謝申し上げます。

四年前、私達は看護職者となるべく大きな夢を抱き、この場所で看護の道を歩み始めました。ナイチンゲールの「看護とは生命力の消耗を最小にするように生活過程を整えること」という言葉から「人間とは」「生活とは」「生命とは」と看護を深め、基礎を築いていきました。

二年次からはより専門的な学習が増え、採血などの看護技術の演習では、グループの仲間と何度も練習を重ね技術力を高めていきました。二年次2月の臨地実習では、初めて患者さんを担当させて頂きました。私は、左足を骨折し骨接合術を行った80代後半の女性を担当し、手術後の回復を促すための様々なケアを計画しましたが、いざケアの説明をしようとしても関心を持ってもらうことができませんでした。その日は家族がお見舞に来られる予定で頭がいっぱいになっておられ、回復のためのケア計画を伝えたい私の気持ちと、患者さんの認識とずれが生じていたのだと振り返りました。初めての实習で、相手の立場に一旦移って、身体の状態、心の状態に合わせた関わりをしなければ看護にならないという大切な学びとなりました。

三年次の半年間の臨地実習では、様々な領域で患者さんと出会い、先生方、病院、施設のスタッフの方々の熱心なご指導を受けながら、看護観を高めてまいりました。精神看護の領域で出会った方がとても印象に残っています。助産院で看護師として勤務されていましたが、働き盛りの時期に統合失調症を発症された50代の女性の方でした。きつい幻聴などの症状がみられていましたが、看護

師として赤ちゃんのお世話をしていた、ご両親の通院の送迎が自分の役割であった、ということをお話されるときは素敵な笑顔が見られます。他者を支援してきたことがその方の誇りであったと感じ取りました。病気の発症により社会の中で役割を感じる事が少なくなり、現在は看護の仕事はできないけれど、その方の優しさや気遣いが感じられた時はすぐに伝えるよう意識しました。そして、他者を支援するというその人らしさを他者も承認していると感じることができるように、また、本人もそれが自分らしさである、と思えるように一緒に時を過ごしました。すると次第に他者と笑顔で交流することが増えていました。その人が人生の中で大切にしてきたこと、そして培ってきた力を発揮することができるように、発せられる言葉や表情など心や身体の状態に合わせて細やかにかかわっていくこと、その看護が積み重ねていくことにより健康を増進することに繋がるのだと改めて理解できました。

四年間、講義や実習を通して、責任感、使命感が強くなりました。そういう意味で四年間を振り返ってみると、今まで必死になって学んだこと、考えたこと、心を尽くしてきたこと、実習をとおして様々なことを教えて下さった患者さん、親身になって熱心に教育して下さいました先生方、つらいこと、嬉しいことを共有し合った友人、ずっと温かく応援してくれる家族、様々な人との関わりや経験が看護師として歩むことを支えてくれたのだと感じられます。今後も新たな出会いと学びと共につらいこと、困難なことがあると思います。そのたびに、この場所で学んだ誇りや出会い支えてもらったすべての人への感謝を胸に、それぞれの目標に向かって努力し続けていくことをお約束いたします。

1年前より世界中に新型コロナウイルスの感染が広がり、私たちの学びの場も実習や講義が変更となることがありました。困惑もありましたが、感染看護について学びを深める機会となりました。医療

や看護の現場も混乱があったと思いますが、どのような状況にあっても、すべての人々が健康で幸せに生きることへの貢献ができるよう、尽力してまいります。

結びにあたり、今日までご指導して下さった先生方、学びの環境を整えて下さった職員の皆様、大切な仲間たち、温かく見守ってくれた家族、これまで出会えたすべての皆様へ感謝を申し上げますと共に、本学の今後の益々のご発展と在学生の皆様のご活躍を心よりお祈りいたしまして答辞とさせていただきます。

令和3年3月16日

第21回卒業生代表 河野結莉